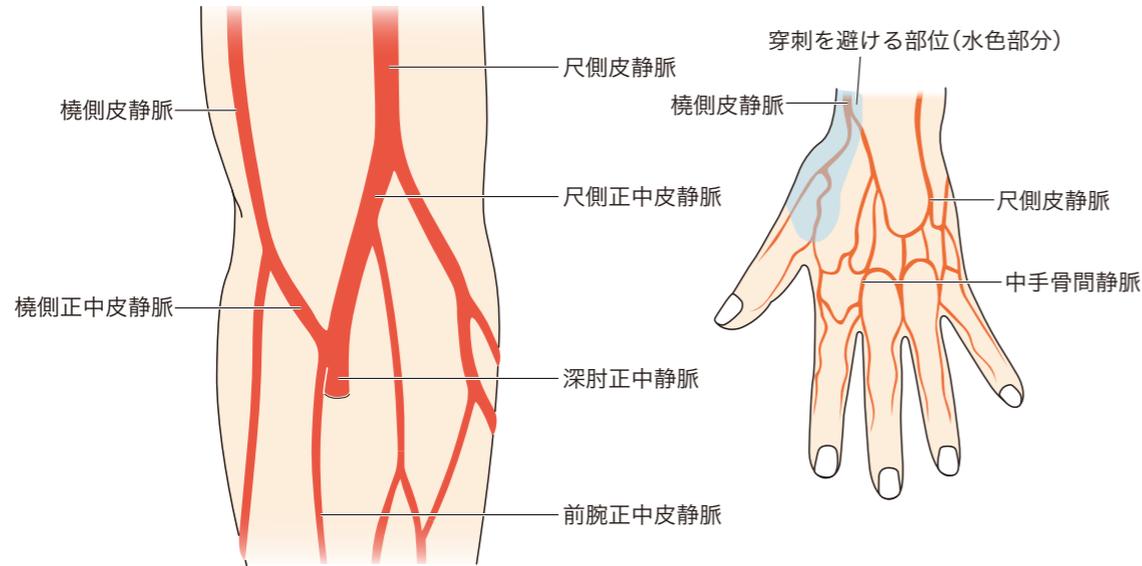


20

静脈注射(静注)法

迅速かつ強力で、効果的な薬物作用



静脈注射に使われる血管

静脈注射法は、静脈内に直接薬液を入れる方法である。薬物作用は迅速かつ強力で、最も効果的である。1回だけの薬液注入と、持続注入(点滴静脈注射)とがある。

注射部位

表在性の静脈はすべて適応となるが、通常は、前腕肘窩あるいは手背の表在静脈を用いる。

実施の手順

- 患者は座位か、臥位とする。
 注射針は21~23 Gを用いる。
 細い静脈には翼状針が使いやすい。
- ① 注射部位より中枢側で駆血帯を締め、静脈が浮き出のを待って、穿刺しやすい静脈を決める。
 - ② 注射部位をアルコール綿で消毒する。
 - ③ 注射針の切り口を上方向に向け、皮膚面に対して約15~20度の角度で皮膚を穿刺する。このとき、もう片方の手の母指で静脈を手前に引っ張り、固定すると血管が逃げにくい。

皮膚を刺して、次に静脈を穿刺する。血管内に針が入ると、針が血管壁をプスンと突き抜ける感触があり、血液の逆流がみられる。

針先が血管から抜けないように針をわずかに進める。

- ④ 駆血帯をはずし、母指で注射針と針の接合部を固定し、患者の腕を把持しながら薬液を注入する。

点滴、留置針(翼状針)の場合には、針をテープで固定する。カテーテルをループにしてテープで止め、固定を強化する。

薬液の注入は、ゆっくり行う。

注入が終わったら、素早く針を抜き、アルコール綿でしばらく押さえ、止血したら絆創膏を貼る。

注意点と留意点

- ・患者さんを間違えていないか。
- ・投与方法を間違えていないか。
- ・患者さんに、薬液をどこから打ち、どんな副作用があるか説明し、理解してもらう。
- ・無菌的に行うことを心がける。
- ・血管や神経に接近した部位に注射しているため、患者の訴え、症状に注意する(左図の手の水色の部分は、とくに注意する)。



① 注射部位より中枢側で駆血帯を締める。患者には母指を中にして手を握ってもらう。



② 注射部位をアルコール綿で消毒する。



③ 注射針の切り口を上方向に向け、皮膚面に対して約15~20度の角度で皮膚を穿刺する。このとき、もう片方の手の母指で静脈を手前に引っ張り、固定すると血管が逃げにくい。



④ 点滴、留置針(翼状針)の場合には、針をテープで固定する。カテーテルをループにしてテープで止め、固定を強化する。

静脈注射実施手順